

第335回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成29年2月27日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
春日 貴光	委員	碓井 真史	委員
原田 健一	委員	大久保千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

代表取締役会長	室川 治久
常務取締役 編成担当	須佐 博樹
取締役報道制作局長	平野 真一
執行役員編成局長兼番組審議会事務局長	稲田 裕之
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局報道部長	竹野 和治
事務局	水野 明子
	山崎 学
	吉田康宏

4 議 題

1) 番組合評

「糸魚川大火の警鐘 ～あれから1か月 復興への針路～」

[放送：平成29年1月21日（土）16:00-16:55]

(説明：番組チーフプロデューサー 竹野和治)

2) 会社報告

①1月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、2016年年末に発生した糸魚川大火を報道部総動員で取材した。取材を続けていく中で、なぜ大火が発生してしまったのか、なぜ147棟も焼失してしまったのか、という疑問があり、そこを検証していく必要があると、番組化に向けて動き出した。災害から1か月の節目に街がどのように復興をしていかなければならないか、なども盛り込み時間のない中ではあったが、報道の責任として番組を制作した、という説明があった。

(委員の意見)

- 全体として見ごたえがあり、丁寧に作られていると思った。大火から1か月という中で良く作っていて、他局と比較しても説得力のある番組だと感じた。視聴者として大火がなぜ起きたのかという疑問に対して答えが分かった。
- 初動の映像や火事の範囲図等があり分かり易かった。

- 加賀の井酒造の場面もドラマティックにならず、程よい距離感での取材姿勢で、より一層その大変さが伝わって来た。
- 映像に迫力があり、大火を時系列で追いかけていたので、全体のバランスが良かった。文字ではこの大火を追いかけていたが、映像としてよくまとまっていたので肌で大火の怖さを感じることができた。
- スタジオ展開がなかったが、映像が多く取材も多く取り入れていたのでスタジオ展開は不要と納得した。但し、ナレーションがもう少し淡々としていても良かったのではないかな。
- 火事の状況だけでなく、復旧復興も描かれていたことは番組上重要であったと思う。継続的に取材に取り組んで番組化して行ってもらいたい。
- 多く取材し、その証言をよく構成していたと感じた。同時期に発生した新潟市との消火活動の比較、酒田市や墨田区との比較など、多面的・多角的な報道がなされていて良かった。
- 番組が今後への希望で終わっていたが、番組名の「警鐘」からすると希望の部分は少なくとも良かったのではないかな。
- 全国放送のニュースと違い、火事の検証だけでなく加賀の井酒造を取り上げたところにローカル局としての役目があったのだと思う。
- 相当苦労し構成して作られていたと感じた。非常にクールに実情を映像に落とし込み、作り手の個人の意見を入れずに作ったことで、分かり易く見ることが出来た。
- 防災の評論家が出てきたが、不要であったと思う。
- 糸魚川大火を通じて火事への認識を改めて考えさせる番組に出来ていたと思う。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月 …… 137件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成29年1月30日)から、昨日(平成29年2月26日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第334回審議会では、「社員は芸妓～つなげ古町花柳界の伝統～」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第335回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・1月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(2/3、17号)
- ・BPO報告 NO.171

以上